

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 41 号

発行日

2024.12. 15

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○「光る君へ」で想ったこと!!

明日(15日)で、今年のNHK大河ドラマ「光る君へ」が終わる! 煌びやかな平安貴族の世、主人公の紫式部(まひろ)と大権力者藤原道長との妖しげな? 男女関係を軸にして、本ドラマは展開してきたわけであるが、まさに、かの『源氏物語』は、そのような人間関係を生々しく描いたものであったであろう(直接読んだことはないので分からないが?)!! これまでの作品とは違うという、大方の評があつたようであるが、「大河」自体が、昨今の新しい河の流れ? の中で、その存在意義を模索したということでもあろう(大石静という脚本家が、それに応えたということか?)!! 私には、それについては、これ以上何も言うことはない(あくまでもエンタメであり、時代や登場人物の「大河性?」には、それほど拘りはない?)、今回は、予期せぬ情報を得たことだけは記しておきたい! 言わば、新しい知識ということであるが、それは、天皇や貴族達の暮らしぶりということである。特に、書き物を巡る(読む)天皇や貴族達(女御を含む)の言動が面白かったが、書き物と日常の連続性(否、一体性?)がそこにはあつたということである(本来、そういうものかもしれないが?)。これは、新しい発見である!!

他にも、幾つか想うことはあるが、ここでは、天皇の存在悲哀? みたいなものに触れておきたい。ただし、ある意味では、そのことは今日まで続いていることなので軽々には言えないが、そういう人間(お上)が、国の存続にとって、哀しい程に必要であつたということである!! 「統治」と「祭祀」の間(妙?)にあつて、自らの意思ではどうしようもない人生を送る! そういう存在であつたということである!!

○慢心は、常に忍び寄ってくる?

話題としては、かなり過去のものとなつたとは思われるが、過日、野球のプレミア12が終つた! 残念ながら、日本チームは、それまで8戦全勝と、無敵の戦績を残し、改めての台湾との決戦(三度目)に臨んだわけだが、無残にも、0対4で完敗してしまつた! もちろんスポーツのことであるので、余程の力の差がなければ、まさに勝つたり、負けたりのこととなるが、何故か、この試合は、後味の悪いものであつた!

と言うのも、試合前の、ベンチ前でのご勢上げ? の様子が、試合中に流されたが、そこでの選手達の雰囲気、優勝するのは当たり前だ! というような塩梅に見えた! もちろん、リラックスのための盛り上げではあつたろうが、口上を述べていた選手の軽さ? に、私は、甚だしい違和感を抱いた! そして、案の定、負けた! もちろん、そのこと自体が、負けの原因だとは思わないが、どこかに奢り、高ぶりがあつたことは間違いないであろう!

要は、慢心は要注意ということでもあるが、本当に優勝したかつたならば(したかつたとは思ふが?)、謙虚にかつたか? たかに試合に臨まなければならなかつたということである!! 余計なことだが、その時に、誰か一人でもそのことに気付き、みんなに告げていたならば、どうなつていたか? 折角のムードを壊したくなかつたということもあるが、そこが、どうであつたのか? 一方の、台湾の方は、その一戦にかけていた(お金も!)! その違いは大きかつた? でも、選手達は、大きな財産を得た! 慢心は、禁物であることを!! だが、監督は分かつていた?

○「国社研」の変わりよつ! その先を知りたかつた!

過日(11月30~12月1日)、日本生涯教育学会第45回大会があつた! もちろん、私は、ズームでの参加であつたが(もう何年も前から)、今回は、とても面白い発表を聞かせてもらった! なかでも、私が、35年前後に勤務していた国立教育政策研究所社会教育実践研究センター(当時名:国立社会教育研修所/愛称「国社研」)の発表には、とても驚かされた! まさに、隔世の感、ここにありということであつたが、その取り組みには、甚大な意義と可能性を感じさせてもらった!

と言うのも、ここでは、現在「Brain」(ぶらーり)。上野」というものが行われており、これまでは、調査研究や関係者の研修だけで、その機能を果たしてきたセンターが、その枠を取り外して、近隣の人々や学校(高等学校)と協力して、新たな役割を構築しようとしているからである! 折角の機会でもあつたので、少し質問をさせてもらおうと思つたのであるが、時間がなくて、結局は出来なかつた(非常に残念である)!

要は、その取り組みが、いわゆる「国策(総合教育政策)」として、どのように波及していくのか? ということであるが、単なるセンターの生き残り策で終わるのではなく、同センターの研究・研修事業に、どう生かされるのかということである! ちなみに、そこ(地域学校協働活動)での大きな課題は、かの「教育課程」にどう絡ませるのかということであるが、それが、うまくいかなければ、学校側にとっては、負担の大きいものとなる(しかも、現在、その学校側は、かの「働き方改革」の真只中であつて、そうしたヴィジョンを失おうともしている?)! だから、社会教育側が、どんなに熱意をもって協働、協力を呼び掛けても、迷惑な話となる!! そのことを克服するためにも、この動きは重要なのだ!

ということ、今回の学会参加では、改めて、様々な情報提供や示唆を受けた! 現役をゆうに退いた身ではあるが、この恩恵? を、是非とも、今付き合っている人達に伝えたい方はない(特に沖縄の人達に! 主として「教育協働アカデミー」を通じて!)! そしてまた、その辺りのことを、広く「新・教育協働への道」で語っていくことにしたい(自腰脚を気にしながら?)!

(井上)

